

# 第2回 夷隅地区 地域協議会資料

令和5年2月16日  
大多喜町教育委員会

# 進路状況及び進路指導等の取組について

## (1) 学校の概要

- ・「至誠純真」「進取向上」「自主協同」を教育目標に掲げ、誠実さ、向上心を兼ね備え、とりまく人々と協力する心を持つ人材を育成する。
- ・文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」のアソシエート校（地域魅力型・令和2年～4年の3年間）の指定を受け、これからの社会を力強く生き抜く人材に必要な「課題発見能力」「課題解決能力」「自己表現能力」を身につけるとともに自分たちの地域のことをよく知ったうえで課題や良さを見つけて発信したり、課題解決策を創出するなど、主体的に行動できる人材の育成を目指す。

## (2) 卒業生の進路状況（全日制普通科）

ア 令和3年3月卒業生 136人（進路決定者：130人（95.6%）、未定者：6人（4.4%））

① 進学 120人(88.2%) ・ ・ 一般受験 21人、指定校推薦 49人、公募推薦16人、  
総合型選抜※1 34人

②就 職 10人( 7.4%) ・ ・

③その他 6人( 4.4%) ・ ・ 浪人 4人

※1 総合型選抜：面接・小論文、志望動機や学部・学科に対する適性、入学後の意欲などで総合的な人物評価を行って選抜する方法。  
AO入試から名称変更(R2～)。

## イ 進路の特徴

- ・一般選抜は前年よりより増えたが、ほとんどは推薦による進学。99/120人(82.5%)
- ・国公立大学への進学が、ここ数年の中では多かった。5/80人(6.3%)
- ・8割以上が進学希望だが、R3年3月卒業生は専門学校進学が例年より少なかった。
- ・就職希望者の多くは公務員を目指している。民間企業は不採用となるケースはほぼなく、生徒の希望企業に就職している。

年度	卒業生数 ( )は 入学時の数※2	進路決定者	進学				就職	その他未定 (浪人等)
			計	4年制大学	短期大学	専門学校		
R2	136人(137人)	130人(95.6%)	120人(88.2%)	80人(58.8%)	5人(3.7%)	35人 (25.7%)	10人(7.4%)	6人(4.4%)
R元	159人(164人)	149人(93.7%)	133人(83.6%)	81人(50.9%)	5人(3.1%)	47人 (29.6%)	16人 (10.1%)	10人(6.3%)
H30	150人(152人)	143人(95.3%)	132人(88.0%)	83人(55.3%)	9人(6.0%)	40人 (26.7%)	11人(7.3%)	7人(4.7%)
H29	159人(162人)	145人(91.2%)	131人(82.4%)	74人(46.5%)	14人 (8.8%)	43人 (27.1%)	14人 (8.8%)	14人(8.8%)

※2 入学時と卒業時の生徒数の差は、留学や転学によるもの。

### (3) 主な取組

#### ア 進学に関する取組

- ・国公立大受験を目指す生徒等に対応し、毎週火、水、金の3日間に通常より1時限多い7時限授業を実施している。〔1学年は国語総合・数学Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅰ、2学年は数学B、3学年は古典A〕（1年36名、2年25名、3年20名）
- ・希望する進路実現に向けた学年別進路説明会の実施（年間3回）
- ・資格取得の推進（GTEC※5、英検の実施）
- ・1学年時からインターシップや大学等への体験入学等を積極的に推進し、生徒が自己の人生を見据えた進路選択が出来るよう配慮したきめ細かな進路指導を行っている。

## イ 学力向上・授業改善に係る取組

- ・少人数授業（1年国語1クラスを2グループに分ける）、習熟度別授業（1年数学、英語2クラスを3グループに分ける）の実施。
- ・朝読書の実施（毎朝、始業前5分間：全学年）。
- ・早朝、昼休み、放課後を使っての補習を実施。
- ・夏季休業中に1学年は基礎学力、2学年は基礎及び進学、3学年は受験指導を主な目的として「夏期特別講座」（今年度は11講座）を実施している。国語、社会、数学、理科、英語等の各講座は1回2時間で5～7回を開講。その他、進路指導講座として7回実施している。
- ・ICTを活用した授業動画により生徒各自が振り返りを実施している。（1本5分程度）
- ・基礎学力の定着のため、全学年で漢字テストを年8回及び英単語テストを年7回実施している。また、1学年は数学計算力テストを、2・3年は英語（文法や慣用句等）テストを年6回実施している。

## ウ その他

令和3年6月に「持続可能な地域づくりに貢献できる地域創生リーダー」としての、人材育成及び生徒により良い学びを提供するための環境づくりとともに地元大多喜町を中心とする夷隅地域の活性化を目指して、連携機関（コンソーシアム）※7を設置している。

### ① 総合的な探究の時間（大高探究）

- ・ 探究活動に必要な基本的な技法を習得する。
- ・ コンソーシアムによる出前授業により、大多喜町の歴史・文化・資源・環境・健康福祉・交通等について理解を深め、共通の興味・関心を持つ生徒でグループをつくり、テーマを設定し、協働して研究を進める。
- ・ フィールドワーク等実地調査等を実施して、大多喜町に関する探究活動を行い、発表会を行う。

## ② 大多喜共創プロジェクト（課外活動）

- ・ いすみ鉄道活性化プロジェクト・・・いすみ鉄道でのマンドリンギター部によるマンドリンギター列車の運行、駅舎の掃除
- ・ 読書活動（読み聞かせ）推進プロジェクト・・・小学校での読み聞かせの実施（読み手）
- ・ 大多喜町・元気まつり活性化プロジェクト・・・大多喜町2大祭り開催時の補助、町の活性化に向けた研究への参画
- ・ インターンシップ・ボランティア推進プロジェクト・・・竹林整備、幼稚園・小中学校との交流



# 大多喜高校への支援

- 人的支援
- 金銭的支援

# 人的支援

- ・ 大多喜高校支援推進委員会
- ・ 大多喜高校魅力化コンソーシアム会議
- ・ 大高探究等への講師派遣
- ・ キャリア教育の受け入れ

# 千葉県立大多喜高等学校支援推進委員会設置要綱（抜粋）

平成28年4月21日

教育委員会告示第8号

## （設置）

第1条 少子化による生徒数の減少により県立高校の再編及び統廃合の検討がされる中、本町に創立され110余年の伝統を持つ千葉県立大多喜高等学校（以下「大多喜高校」という。）の存続に向けた取組を実施するため、千葉県立大多喜高等学校支援推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

## （検討事項）

第2条 委員会の検討事項は、次のとおりとする。

- （1） 大多喜高校支援推進に関する事項
- （2） 大多喜高校生徒の学習支援に関する事項

# 大多喜高校魅力化コンソーシアム設置要綱（抜粋）

令和3年6月3日

## （設置）

第1条 本コンソーシアムの名称は「大多喜高校魅力化コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）」とする。

## （目的）

第2条 コンソーシアムは、大多喜高校が目標とする「持続可能な地域づくりに貢献できる地域創生リーダー」としての人材育成及び生徒により良い学びを提供するための環境づくりとともに地元大多喜町を中心とする夷隅地域の活性化を目指して、大多喜町、大多喜町教育委員会及び賛同企業、連携大学等の高等教育機関等と大多喜高校が協働体制を構築し、教育活動を展開することを目的とする。

## （協働事業）

第3条 コンソーシアムは前条の目的を達成するため、次の協働事業を行う。

- （1） 大多喜高校支援推進に関すること
- （2） 地域の活性化に係る取組に関すること

# 大高探求（令和4年6月16日実施）

所属課	メインテーマ	担当職員	授業概要	使用するもの
教育課	好き！！得意！！を生かせる幼児教育	大多喜町立みつば保育園 松本 まどか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育の資格取得にあたって</li> <li>・保育現場のあれこれ</li> <li>・大多喜町保育園の様子など</li> </ul>	資料が掲示できるもの （黒板、ホワイトボードなど）
教育課	学校の先生ってこんな仕事①②	大多喜町立大多喜中学校 鶴岡 利明	大多喜中職員の実態、教職の魅力、なぜ教職はブラックなのか、教員生活を振り返って	大型モニター又はプロジェクター （PC等は持参します）
農林課	有害獣対策の現況について	農政係 桐生 翼	農作物被害状況、町の捕獲頭数、被害対策と課題、捕獲獣の活用等について	資料配布あり
生涯学習課	或る大多喜藩主の一生	社会教育係 小高 春雄	大多喜藩江戸屋敷から大多喜城三ノ丸へと移り住んだ大多喜藩士の日常とはどんなものであったか。	プロジェクター
健康福祉課	シニアが活躍 ～支えあう町「大多喜」～	介護保険係 黒須 直也	大多喜町の高齢者事業について。	配布資料
商工観光課	生まれ変わる大多喜城 ～町の観光拠点として～	観光係 加藤 奈緒樹	観光拠点としての 大多喜城 現状と未来	配布資料のみ

# キャリア教育の受入れとして

- ▶ 職場体験の受入れ（役場など）
- ▶ 選挙の立会人
- ▶ 教員養成講座

# 学校外の学修の単位認定について (教員養成に関する取組)

## 1 目的

本校では、毎年10名を超える生徒が将来の進路として、教育関係職を希望し、大学、短大、専門学校へ進学している。このような実態を踏まえ、教育に関心を持ち、将来教員を目指す生徒が、教員としての基礎的な素養を身に付けるとともに、夢や意欲、職業意識を育む。

## 2 内容

- (1) 教育系高大連携校による、長期休業中における出前授業や特別講座、大学の講義体験、学生との交流会を行う。
- (2) 近隣の幼稚園、保育園、小学校、中学校、特別支援学校等との連携による、教育体験実習、学習支援活動を実施し、教員としての職業意識を育成する。
- (3) 大多喜町と連携し、地域の教育に関する講座を実施する。

3 実施期間 令和4年4月～令和5年3月

4 修得単位数 (令和4年度申請、令和5年度より本格実施) 1単位

5 受講者の選出 4月当初に年間計画を提示し、校内で募集する希望制とする。(学年問わない)

6 協力団体 大多喜町・大多喜町教育委員会・いすみ市教育委員会・勝浦市教育委員会・御宿町教育委員会・長生郡市内各教育委員会・植草学園大学・三育学院大学・千葉工業大学・コンソーシアム関連団体

【講座内容（年間計画）】

◆希望者のみ実施

No	月日	内 容	会 場	備 考
1	5/2（月）	オリエンテーション（説明会） （4/6～4/22希望調査）	視聴覚室	15:50～ 30分
2	5/23（月）	教育の魅力について I	視聴覚室	（中間考査最終日） 13:00～ 町教育長 50分
3	6/16（木）	学校の日常について	教室（出前講座内）	13:15（5～6限）から 町中学校長 50分
4	7月 ～8月	教育体験実習・学習支援 （夏季休業期間）	近隣の保育園・幼稚園・ 小学校・中学校 特支学校	2日間（終日） 行き先については別途希望を とります
※5	7/11（月）・12 （火）	高大連携校による特別授業 （期末考査答案返却期間） （植草学園大学 他）	視聴覚室	（答案返却2・3日目） 13:00～（2日間） 60分×2講座
6	9/12（月）	教頭講話&教育実習生講話	視聴覚室	15:50～ 教頭・実習生 50分
7	10月予定	教育体験実習	夷隅特別支援学校	1日（終日）



No	月日	内 容	会 場	備 考
8	11/17 (木)	先生っていいもんだ (県教職員課主催)	視聴覚室	15:40~ 60分
9	12月	教育体験実習・学習支援 (冬季休業期間)	近隣の保育園・幼稚園・ 小学校・中学校 特支学校	1日(終日) 行き先については別途希望を とります
※ 10	12/19 (月)	高大連携校による特別授業 (期末考査答案返却期間) (植草学園大学 他)	視聴覚室	(答案返却最終日) 13:00~ 60分×2講座
11	1/16 (月)	校長講話 (期末考査答案返却期間) 取組状況発表(受講者より)	視聴覚室	校長・受講者 70分
12	3/10 (月)	教育の魅力についてⅡ	視聴覚室	(学年末考査最終日) 13:00 ~町教育長 50分
◆(13)	9月~10月	(小学校読み聞かせ)	(近隣小学校)	10分×3日(30分)

※夏季休業前(全て植草学園大学の先生方)・冬季休業前(1日)の大学連携講義について

講義1 教育心理学 金子 功一 講師  
 講義2 身体活動とコミュニケーション 鈴木 瑛貴 講師(オンライン)  
 講義3 特別支援教育入門(障害とは何か) 名古屋 恒彦 教授  
 講義4 価値観と視点を変える 村上 悦子 准教授  
 講義5・6については、現在検討中

講義5 教育者・保育者に求められる言葉の力 講義6 教職に就くということ

# 金銭的支援

大多喜高校支援事業補助金で

- ・スタディサプリ（H26～R1）
- ・英語教師補助（R2～）

# 大多喜町大多喜高校後援会支援事業補助金交付要綱（抜粋）

平成25年3月29日

告示第22号

## （趣旨）

第1条 この要綱は、永年にわたり地域に根差した学校づくりを進める千葉県立大多喜高等学校の教育事業を後援し、その充実及び発展を図るとともに地域文化の向上に寄与することを目的とする千葉県立大多喜高等学校後援会（以下「後援会」という。）に対し、予算の範囲内において、大多喜町補助金等交付規則（昭和55年規則第12号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、補助金を交付することに関し必要な事項を定めるものとする。

## （補助対象事業）

第2条 補助金の対象となる事業は、次に掲げる事業とする。

- （1） 教育活動の支援に関する事業
- （2） 部活動の助成に関する事業
- （3） 地域活動の支援に関する事業
- （4） その他町長が必要と認める事業